

烏山城跡現地説明会資料

— 古絵図が語る城の姿・新たな発見 —

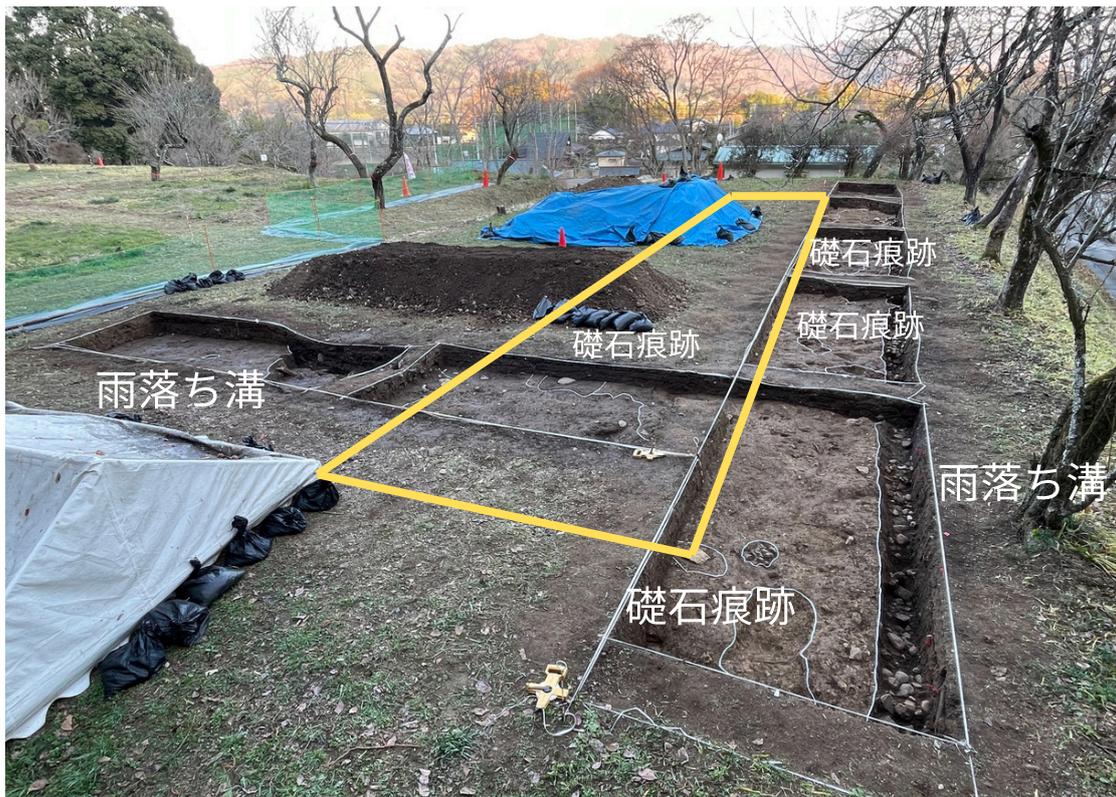
1. 調査の目的と概要

烏山城は、応永25年（1418）に沢村五郎資重によって築城されたと伝えられる、北関東屈指の規模を誇る山城です。今年度は、史跡の整備に活かすための基礎資料を得ることを目的として、山麓部の三の丸にて発掘調査を実施しました。結果、江戸時代の古絵図にも描かれた多聞櫓（たもんやぐら）の痕跡などを発見することができました。

2. 今回の重要トピックス

① 古絵図に描かれた「多聞櫓」の痕跡を発見 — 県内では宇都宮城と烏山城のみ —

多聞櫓とは土塁や石垣の上に建てられた倉庫のこと。古絵図に相当する場所で礎石の痕跡を発見しました。礎石とは建物の柱の基礎石のこと。



発掘調査現場（西から撮影）

- ・ 建物の大きさは、東西12間（21.6m）、南北2間（3.6m）。
- ・ 礎石痕跡のある地面は、基礎工事がされ固く締まっていました。
- ・ 屋根の軒先の範囲の分かる「雨落ち溝」も発見。
- ・ 鉄釘や食器類の破片も出土。



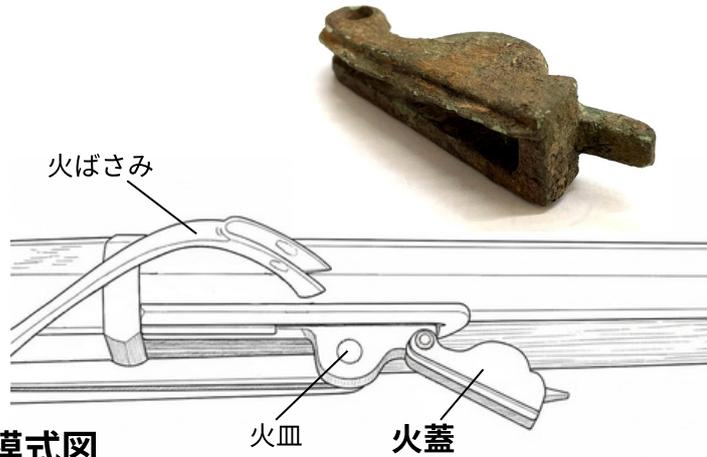
日本古城絵図東山道之部（国立国会図書館蔵）
 三の丸部分を抜粋し一部加筆。江戸時代中期、18世紀前半頃。



烏山城図（那須烏山市蔵）
 三の丸部分を抜粋し一部加筆。江戸時代後期、19世紀、廢城に近い頃。

②火縄銃の重要な部品「火蓋（ひぶた）」が出土 ー県内では初出土ー

三の丸の出入り口の通路にて、火縄銃の部品である「火蓋」が1点出土しました。火蓋は暴発を防ぐための回転式の安全装置です。火薬を盛る火皿を覆います。



出土した火蓋と模式図

- ・「火蓋を切る」の語源。全長48mm
- ・他の部品は見つからず、かつ良好な状態で残っていることから、部品として手入れ（管理）がされていたものか。

③整然と並ぶ「木杭列」が出土

通路の地盤強化（土留め）か、暗渠（排水設備）か、滑り止めか。



2列の木杭列（西から撮影）

④「石列」と「石敷き」が出土

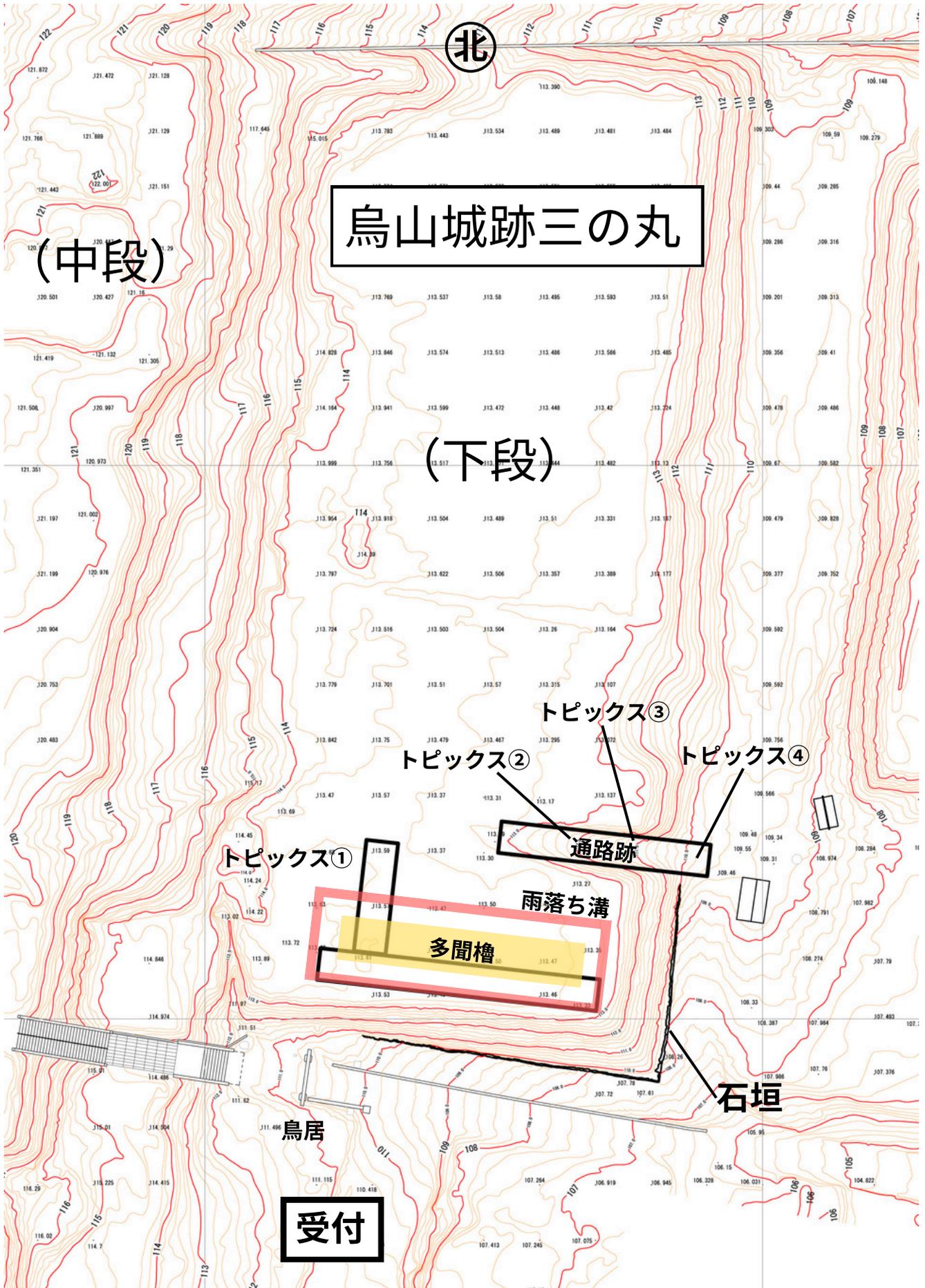
石列は、出入口に関わる石段や城域と城代屋敷との境が考えられる。石敷きは道の路面か。



石列と石敷き（北東から撮影）

3.まとめ

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ① 古絵図に描かれた「多間櫓」の痕跡を発見 | ➡ 古絵図の信ぴょう性 |
| ② 火縄銃の重要な部品「火蓋」が出土 | ➡ 火縄銃の存在を確認 |
| ③ 整然と並ぶ「木杭列」が出土 | ➡ 今後も調査研究 |
| ④ 整然と並ぶ「石列」と「石敷き」が出土 | ➡ 周囲の調査を継続 |



鳥山城跡三の丸発掘調査現場模式図 (縮尺 1/500)